

ラテンアメリカ・カリブ関連新刊図書

(2008年5月～2009年4月)

- アギニス、マルコス（八重樫克彦・八重樫由貴子 訳）『マラーノの武勲』作品社、2009年2月。
- 浅香幸枝編『地球時代の多文化共生の諸相一人が繋ぐ国際関係』行路社、2009年3月。
- アジェンデ、イサベル（木村榮一訳）『精霊たちの家』河出書房新社、2009年3月。
- アシス、マシャード・デ（伊藤奈希砂・伊藤緑 訳）『プラス・クーバスの死後の回想』国際語学社、2009年1月。
- 足立力也『丸腰国家一軍隊を放棄したコスタリカの平和戦略』扶桑社新書、2009年2月。
- 天沼香『故国を忘れず新天地を拓く一移民から見る近代日本』新潮選書、2008年8月。
- 網野徹哉『インカとスペイン 帝国の交錯』講談社、2008年5月。
- 荒尾眞弓『アマゾンの旅―道路屋、道なき道を行く』皓星社、2008年10月。
- 嵐よういち『南米ブラックロード』彩図社、2008年10月。
- 安良田済『ブラジル日系コロニア文芸 下巻』サンパウロ人文科学研究所、2008年8月。
- 飯田辰彦『メキシコ風来―コロニアル・シティの光と陰』鉾脈社、2008年6月。
- 石井章『ラテンアメリカ農地改革論』学術出版会、2008年12月。
- 石田博士編『中南米が日本を追い抜く日―三菱商事駐在員の目』朝日新書、2008年6月。
- 伊藤千尋『活憲の時代―コスタリカから9条へ』シネ・フロント社、2008年5月。
- イボットソン、エヴァ（三辺律子訳）『夢の彼方への旅』偕成社、2008年6月。
- 今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料―国勢調査・経済社会統計』上智大学イベロアメリカ研究所、2008年3月。
- 今福龍太『ブラジルのホモ・ルーデンス―サッカー批評原論』月曜社、2008年11月。
- 植嶋秀文・井岡美保『ブラジルのかわいいデザインたち―光と風の国から届いた心地よい雑貨たち』ピエ・ブックス、2008年9月。
- 上野清士『ラス・カサスへの道―500年後の〈新世界〉を歩く』新泉社、2008年7月。
- 上野久・木ノ花さくや・メキシコ榎本殖民史漫画化プロジェクトチーム・京都精華大学事業推進室『サムライたちのメキシコ―漫画メキシコ榎本殖民史』京都国際マンガミュージアム、2008年4月。
- ヴェリッシモ、ルイス・フェルナンド（栗原百代訳）『ボルヘスと不死のオランウータン』扶桑社、2008年6月。
- 宇佐見耕一・小池洋一・坂口安紀・清水達也・西島章次・浜口伸明『図説ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009年4月。
- 江口信清『スラムの生活環境改善運動の可能性―カリブ海地域の貧困とグローバリズム』明石書店、2008年4月。
- 太田昌国『チェ・ゲバラ プレイバック―『ゲバラを脱神話化する』改題・増補』現代企画室、2009年1月。
- 太田靖子『俳句とジャポニスム―メキシコ詩人タブラーダの場合』思文閣出版、2008年8月。
- 大野ゆかり『ブラジルの「おへそ」で拍手!―異文化の中で暮らした親と子の21ヵ月』文芸社、2009年1月。
- 小倉明・山口まさよし『ドン・ロドリゴの幸運―日本・メキシコ交流の始まり』汐文社、2008年12月。
- おぐらひろあき『写真集 エルサルパドル紀行

- ーケータイでここまで撮れた!』文芸社、2008年7月。
- 押切宗平『高岡専太郎ーブラジル移民の赤ひげ先生』無明舎出版、2008年10月。
- 遅野井茂雄・宇佐見耕一編『21世紀ラテンアメリカの左派政権ー虚像と実像』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2008年11月。
- 外務省中南米局中米課編『日本と中南米ー「共益」を語れる時代へ』外務省国内報道課、2008年3月。
- 鍵和田哲男『明日はあしたの風が吹くー退屈しない国 南米』東京図書出版会、2008年2月。
- 鹿嶋敬『恵里子へー結納式の10日後、ポリビアで爆死した最愛の娘への鎮魂歌』日本経済新聞出版社、2009年3月。
- カストロ、フィデル（柳原孝敦訳）『チェ・ゲバラの記憶』トランスワールドジャパン、2008年5月。
- カストロ、フィデル（白野降雨訳）『思想は武器に勝るーフィデル・カストロ自選最新演説集 2003~2006年』VIENT、2008年7月。
- カストロ、ルイ（国安真奈訳）『ボサノヴァの歴史』音楽之友社、2008年7月。
- 片倉充造『スペイン・ラテンアメリカ図書ファイル』沖積舎、2009年1月。
- ガレアーノ、エドゥアルド（飯島みどり訳）『火の記憶 2 顔と仮面』みすず書房、2008年11月。
- 北野収『南部メキシコの内発的発展と NGOーグローバル公共空間における学び・組織化・対抗運動』勁草書房、2008年11月。
- キノ（泉典子訳）『マファルダ 2』エレファントパブリッシング、2008年5月。
- 京都経済同友会交流部会『成長著しいブラジルの社会・経済・産業情勢を探るーブラジル移民 100 周年を記念して 2008 年ブラジル視察報告』2009年2月。
- 銀城康子・萩原亜紀子『ブラジルのごはん（絵本 世界の食事）』農山漁村文化協会、2008年2月。
- 銀城康子・加藤タカ『ペルーのごはん（絵本 世界の食事）』農山漁村文化協会、2008年12月。
- 国本伊代『メキシコ革命』（世界史リブレット 122）山川出版社、2008年6月。
- 国本伊代『メキシコ革命とカトリック教会ー近代国家形成過程における国家と宗教の対立と有和』中央大学出版部、2009年3月。
- グランデイン、グレッグ（松下 洸監訳）『アメリカ帝国のワークショップー米国のラテンアメリカ・中東政策と新自由主義の深層』明石書店 2008年6月。
- 栗本斉『プエノスアイレスー雑貨と文化の旅手帖』毎日コミュニケーションズ、2008年5月。
- ケールマン、ダニエル（瀬川裕司訳）『世界の測量ーガウスとフンボルトの物語』三修社 2008年5月。
- 経済産業省『メキシコ・ミナテトラン製油所の改修ー近代化の事業化調査報告書』2008年1月。
- 小池康弘編『現代中米・カリブを読むー政治・経済・国際関係』山川出版社、2008年4月。
- 国際交流基金『メキシコにおける日系企業の社会貢献活動に関する調査報告書』2008年10月。
- 国際貿易投資研究所編『ブラジルにおける成長産業の動向と消費社会の到来』国際貿易投資研究所、2008年3月。
- 後藤雄介『語学の西北ースペイン語の窓から眺めた南米・日本文化模様』現代書館、2009年3月。
- 小林宏美『多文化社会アメリカの二言語教育と市民意識』慶應義塾大学出版会、2007年12月。
- 酒井祥造『アマゾン短歌の旅』新風舎文庫、2007年12月。

- 坂内久・大江徹男編『燃料か食料か—バイオエタノールの真実』日本経済評論社、2008年8月。
- 坂尾英矩『情熱のリオーベテラン・サカオの半世紀—とおきのブラジルおもしろ裏話』中央アート出版社、2008年12月。
- 坂口安紀編『発展途上国における石油産業の政治経済学的分析—資料集』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2008年3月。
- 佐藤久男『スペイン・中南米紀行一定年後の語学留学Ⅱ』文芸社、2008年3月。
- 佐野誠『「もうひとつの失われた10年」を超えて—原点としてのラテン・アメリカ』新評論、2009年2月。
- サバト、エルネスト（寺尾隆吉訳）『作家とその亡霊たち』現代企画室、2009年3月。
- サルセド＝バスタルド、ホセ・ルイス他（水野一監訳）『シモン・ボリーバル—ラテンアメリカ解放者の人と思想』新装版、春秋社、2008年8月。
- サンパウロ新聞社『100年—ブラジルへ渡った100人の女性の物語』フォイル、2009年2月。
- ジェトロサンパウロセンター編『サンパウロ/リオデジャネイロ/マナウスに暮らす』2008年3月。
- 設楽知靖『講義「中南米地域研究」—21世紀のパートナー・出会いを大切に ビジネスマン先生が考える地域研究プロセス』DTP出版、2008年7月。
- 渋沢栄一記念財団渋沢史料館編『日本人を南米に発展せしむ—日本人のブラジル移住と渋沢栄一 企画展図録』2008年10月。
- 下田哲朗・アデマール・ペレイラ マリーニョ『サッカー王国ブラジルに見る「決定力」育成法』東邦出版、2008年11月。
- ジャンピエトリ、ルイス（沢田博訳）『日本大使公邸襲撃事件—占拠126日と最後の41秒間』イースト・プレス、2009年2月。
- 書肆マコンド『ガルシア・マルケス ひとつ話』新宿書房、2009年4月。
- 杉野俊子『Nikkei Brazilians at a Brazilian School in Japan—Factors affecting language decisions and education』慶應義塾大学出版会、2008年8月。
- 杉本裕司『インカの響き 風爽やか—ペルー・リマ日本人学校通信』創友社、2008年7月。
- 杉山春『移民環流—南米から帰ってくる日系人たち』新潮社、2008年11月。
- 鈴木孝憲『ブラジル巨大経済の真実』日本経済新聞出版社、2008年6月。
- ストレイ、ジェフ（駒田曜訳）『古代マヤの暦—予言・天文学・占星術』創元社、2009年4月。
- 住田育法監修、萩原八郎・山崎圭一・田所清克編『ブラジルの都市問題—貧困と格差を越えて』春風社、2009年2月。
- 関雄二・狐崎知己・中村雄祐編『グアテマラ内戦—後一人間の安全保障の挑戦』明石書店、2009年3月。
- 関根政美・塩原良和編『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成』慶應義塾大学出版会、2008年1月。
- 園田節子『南北アメリカ華民と近代中国—19世紀トランスナショナル・マイグレーション』東京大学出版会、2009年4月。
- 醍醐麻沙夫『超積乱雲』無明舎出版、2008年3月。
- 高野潤『アマゾン源流「食」の冒険』平凡社新書、2008年6月。
- 高野潤『カラー版 アマゾンの森と川を行く』中公新書、2008年10月。
- 高橋慎一・YASUO ANGEL『モンド・キューバ』東京キララ社、2009年1月。

高橋幸春『日系人の歴史を知ろう』岩波ジュニア新書、2008年9月。

高山智博『古代文明の遺産―調和と均衡―メキシコからボリビアにかけて』アサヒビール、2008年4月。

竹内勤・三浦左千夫『しのびよるシャーガス病―中南米の知られざる感染症』慶應義塾大学出版会、2009年4月。

田所清克・伊藤奈希砂『社会の鏡としてのブラジル文学―文学史から見たこの国のかたち』国際語学社、2008年10月。

多々良穰『ようこそマヤ文明へ―マヤ文明へのやさしいアプローチ』文芸社、2008年11月。

旅音『中南米スケッチ』新紀元社、2008年5月。

チェ・ゲバラ、エルネスト（甲斐美都里訳）『ゲバラ 世界を語る』中公文庫、2008年5月。

チェ・ゲバラ、エルネスト（甲斐美都里訳）『新訳 ゲリラ戦争―キューバ革命軍の戦略・戦術』中公文庫、2008年7月。

チャヴィアノ、ダイナ（白川貴訳）『ハバナ奇譚』ランダムハウス講談社、2008年6月。

津崎至・廣瀬ひとみ『「キューバ」を考える―ピースボートに乗ってみたなら…』文芸社、2009年4月。

坪井伸広・鶴島久男『ブラジル花卉産業史序説』ブラジル花卉産業史編纂委員会、2008年8月。

鶴本花織、西山哲郎、松宮朝編『トヨティズムを生きる―名古屋発カルチュラル・スタディーズ』せりか書房、2008年9月。

出川寿子『ビバ・メキシコ留学！―ハタチの大学生活あれこれ@メキシコシティ』文芸社ビジュアルアート、2009年4月。

天理大学アメリカス学会編『アメリカス世界における移動とグローバリゼーション』天理大学出版部、2008年11月。

天理大学附属天理参考館海外民族室編『20世紀

ブラジル―アマゾン先住民の暮らしと日系人の歩み 第59回企画展』天理大学出版部、2008年10月。

戸井十月『ゲバラ最期の時』集英社、2009年1月。

トイダ、エレナ編『日系ブラジル人がみる日本移民100周年―日本ブラジル交流年記念シンポジウム』上智大学イベロアメリカ研究所、2009年3月。

鳥取県中南米移住史編集委員会編『鳥取県中南米移住史』2008年3月。

友田正彰『メキシコ・キューバで出会った人々―60代男の気ままなひとり旅』本の風景社、2008年2月。

豊田市美術館『ブラジル―日本 きみのいるところ』フォイル、2008年9月。

トンプソン、ジョン・エリック・シドニー（青山和夫訳）『マヤ文明の興亡』新評論、2008年12月。

西島章次編『グローバリゼーションの国際経済学』勁草書房、2008年2月。

日経リサーチ『在ブラジル日系企業における現地スタッフの給料と待遇に関する調査―2009ブラジル編』2009年。

日伯農業開発協力株式会社『日伯農業開発協力株式会社社史―ブラジル・セラード農業開発協力事業30年の記録』2007年12月。

日本アマゾンアルミニウム株式会社『アマゾンアルミ・プロジェクト30年の歩み』2008年3月。

日本ウジミナス五十年のあゆみ編纂委員会編『日本ウジミナス五十年のあゆみ〔鉄は日伯を結ぶ〕』2008年4月。

日本在外企業協会『海外派遣者ハンドブッカーブラジル編』日本在外企業協会、2008年3月。

日本写真協会国際交流委員会編『ブラジルの現

- 代写真表現』2008年11月。
- 日本ブラジル中央協会編『新たな交流に向けて
ー日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住
100周年記念特集誌』2008年12月。
- 日本貿易振興機構編『在中南米日系進出企業の
経営実態調査 第9回』2008年12月。
- ニュー・インターナショナルリスト・ジャパン『石
油依存社会への提言ーエクアドルの新たな試
み』インティリンクス、2008年8月。
- ネグリ、アントニオ（廣瀬純訳、ラフ・バルボ
ラ・シェルジ編）『未来派左翼（上）ーグロー
バル民主主義の可能性をさぐる』NHKブッ
クス、2008年3月。
- ネグリ、アントニオ（廣瀬純訳、ラフ・バルボ
ラ・シェルジ編）『未来派左翼（下）ーグロー
バル民主主義の可能性をさぐる』NHKブッ
クス、2008年4月。
- ハーシュマン、アルバート・O（矢野 修一・宮
田 剛志・武井泉訳）『連帯経済の可能性ーラ
テンアメリカにおける草の根の経験』法政大
学出版局、2008年12月。
- ハムネット、ブライアン・土井亨『メキシコの
歴史』創土社、2008年6月。
- パスター、ロバート・A・鈴木康久『アメリカ
の中南米政策ーアメリカ大陸の平和的構築を
目指して』明石書店、2008年7月。
- 長谷川泰三『日本で最初の喫茶店「ブラジル移
民の父」がはじめたーカフェパウリスタ物
語』文園社、2008年11月。
- パラード、ナンド；ヴィンス・ラウス（海津正彦
訳）『アンデスの奇蹟ー南米アンデスの高山に
墜落した旅客機生存者みづから語る72日
間の真実』山と溪谷社、2009年3月。
- パラシオス、ベアトリス（唐澤秀子訳）『『悪な
き大地』への途上にて』現代企画室、2008年
8月。
- ビュリュス、クリスティーナ（遠藤ゆかり・堀
尾真紀子訳）『フリーダ・カーロー痛みこそ、
わが真実』創元社、2008年12月。
- 廣瀬一彦『原住民ツピー族の遺産ーブラジル主
要都市名・山河名などに残るツピー語』丸善
プラネット、2008年9月。
- 廣瀬純・コレクティブシトゥアシオネス『闘争
のアサンプレア』月曜社、2009年3月。
- ファウスト、ボリス（鈴木茂訳）『ブラジル史』
明石書店、2008年6月。
- プール、デイヴィッド（横田乃里子訳）『リカル
ド・フロレス・マゴーンメキシコ革命におけ
るアナキズムの影響』2008年12月。
- 福井次郎『歴史ミステリー コロンブスはなぜ
アメリカ大陸に渡ったのか キーワードはユ
ダヤ人問題』彩流社、2008年4月。
- 藤田正・岡本郁生監修『米国ラテン音楽ディ
スク・ガイド 50's-80's LATIN DANCE
MANIA』リットーミュージック、2008年3
月。
- 二川幸夫『オスカー・ニーマイヤーー形と空間』
エーディーエー・エディタ・トーキョー、2008
年7月。
- 二川幸夫・谷理佐『HOUSES IN MEXICOーメ
キシコの住宅』エーディーエー・エディタ・
トーキョー、2008年9月。
- 二川由夫・二川幸夫『ルイス・バラガン バラガ
ン自邸ーメキシコ、メキシコ・シティ 1947-
48』エーディーエー・エディタ・トーキョー、
2009年2月。
- ブラジル民族文化研究センター編『愛するブラ
ジル 愛する日本ーブラジル移民100周年・
ブラジル民族文化研究センター創設30周年
記念図書』金壽堂出版、2008年6月。
- +81『Voyage Brazil and Argentina issueーブラ
ジル3都市とブエノスアイレスの旅』河出書

- 房新社、2008年12月。
- ペレ（伊藤 淳訳）『ペレ自伝』白水社、2008年4月。
- 星野妙子編『ラテンアメリカの養鶏インテグレーション』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2008年3月。
- 星野弥生『父ゲバラとともに、勝利の日まで—アレイダ・ゲバラの2週間』同時代社、2008年12月。
- 細川周平『遠きにありてつくるもの—日系ブラジル人の思い・ことば・芸能』みすず書房、2008年7月。
- 堀尾真紀子『フリーダ・カーロとディエゴ・リベラ』ランダムハウス講談社、2009年1月。
- 堀坂浩太郎『南米南部地域における天然ガスのインフラ整備と地域統合—国家主義的発想と地域主義的発想のはざま』上智大学イベロアメリカ研究所、2008年3月。
- ポッティング、ダグラス（西川治・前田伸人訳）『フンボルト—地球学の開祖』東洋書林、2008年10月。
- ボルヘス、ホルヘ・ルイス（斎藤幸男訳）『ブエノスアイレスの熱情—ホルヘ・ルイス・ボルヘス初期詩集成 1923–1929』水声社、2008年3月。
- 増田義郎『図説 大航海時代』河出書房新社、2008年9月。
- マダ、ジュンコ『モレの国メキシコ』偕成社、2009年1月。
- 松下洸『途上国の試練と挑戦—新自由主義を超えて』ミネルヴァ書房、2007年9月。
- 松本紘宇『アメリカ大陸コメ物語—コメ食で知る日系移民開拓史』明石書店、2008年9月。
- 丸岡泰『コスタリカの保健医療政策形成—公共部門における人的資源管理の市場主義的改革』専修大学出版局、2008年2月。
- マルカーノ、クリスティーナ、アルベルト・バレラ・ティスカ（神尾賢二訳）『大統領チャベス』緑風出版、2009年3月。
- マルチ、アレイダ（後藤政子訳）『わが夫、チェ・ゲバラ—愛と革命の追憶』朝日新聞出版、2008年5月。
- 丸谷雄一郎『ラテンアメリカ経済成長と広がる貧困格差』創成社、2009年3月。
- 丸谷雄一郎・大澤武志『ウォルマートの新興市場参入戦略—中南米で存在感を増すグローバル・リテ일러』芙蓉書房出版、2008年8月。
- 丸山康則『ブラジル百年にみる日本人の力』モラロジー研究所、2008年7月。
- 三田千代子『「出稼ぎ」から「デカセギ」へ—ブラジル移民100年にみる人と文化のダイナミズム』不二出版、2009年3月。
- 三山喬『日本から一番遠いニッポン—南米同胞百年目の消息』東海教育研究所、2008年6月。
- 宮沢和史『足跡のない道』マガジンハウス、2008年6月。
- 宮沢和史『Brasil-Sick（ブラジルシック）』双葉社、2008年12月。
- 村上勇介・遅野井茂雄編『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索』明石書店、2009年2月。
- 森本幸代編『LT1 ジャマイカの性』MIGHTY MULES' BOOKSTORE、2008年11月。
- 八十山和代『日本ブラジル交流年—日本文化展—八十山和代作品集』白川書院、2008年8月。
- 山口伊佐美・ブラックロック・ジャパン株式会社『知られざる巨大市場—ラテンアメリカ』日経BP企画、2008年9月。
- 山田篤美『黄金郷伝説—スペインとイギリスの探検帝国主義』中公新書、2008年9月。
- 山田真一『エル・システマー—音楽で貧困を救う南

米ベネズエラの社会政策』教育評論社、2008年12月.

山本紀夫『ジャガイモのきた道—文明・飢饉・戦争』岩波新書、2008年5月.

山本紀夫編『酒づくりの民族誌—世界の秘酒・珍酒』（増補）八坂書房、2008年3月.

横田パウロ『サンパウロ市生まれの二世たちの眼差し—ブラジル社会への同化』（非売品）Editora JBC、2008年6月.

吉田沙由里・アレイダ・ゲバラ『小さな国の大きな奇跡—キューバ人が心豊かに暮らす理由』WAVE 出版、2008年5月.

吉田太郎『世界がキューバの高学力に注目するわけ』築地書館、2008年10月.

ラス・カサス（長南実・石原保徳訳）『インディアス史 1〜7』岩波文庫、2009年3月.

ラモス、パブロ・マルシアル・オルティース（関根秀介訳）『プエルト・リコ!カリブのラテントリオー—トリオー・ポリーケン—からトリオー・ロス・パンチョス—へ、そして…』彩流社、2007年12月.

レストレボ・リベラ、ハイロ（近藤恵美・福岡正行・小寺義郎訳）『月と農業—中南米農民の有機農法と暮らしの技術』農山漁村文化協会、2008年3月.

レヴィニストロース、クロード・今福龍太『サンパウロへのサウダージ』みすず書房、2008年11月.

ロストウォロフスキ・デ・ディエス・カンセコ、マリア（染田秀藤訳）『ドーニャ・フランシスカ・ピサロの生涯 1534–1598—征服者（コンキスタドール）ピサロの娘（メスティーサ）』世界思想社、2008年8月.

山崎克雄・安保哲夫・銭佑錫編『ラテンアメリカにおける日本企業の経営』中央経済社、2009年3月.

渡辺庸生『本格メキシコ料理の調理技術—タコス&サルサ』旭屋出版、2008年9月.

和田昌親『逆さまの地球儀—複眼思考の旅』日本経済新聞出版社、2008年12月.

＜編集部より＞

複数の情報源を検索することで、2008年5月から2009年4月までの日本語図書（本誌第15号の未掲載分を含む）を対象にリストを作成しました。情報源によりデータが異なる場合もあるため、出版月についてはあくまでも参考としてください。